

## 東草野の山村景観

## 石臼生産遺跡2

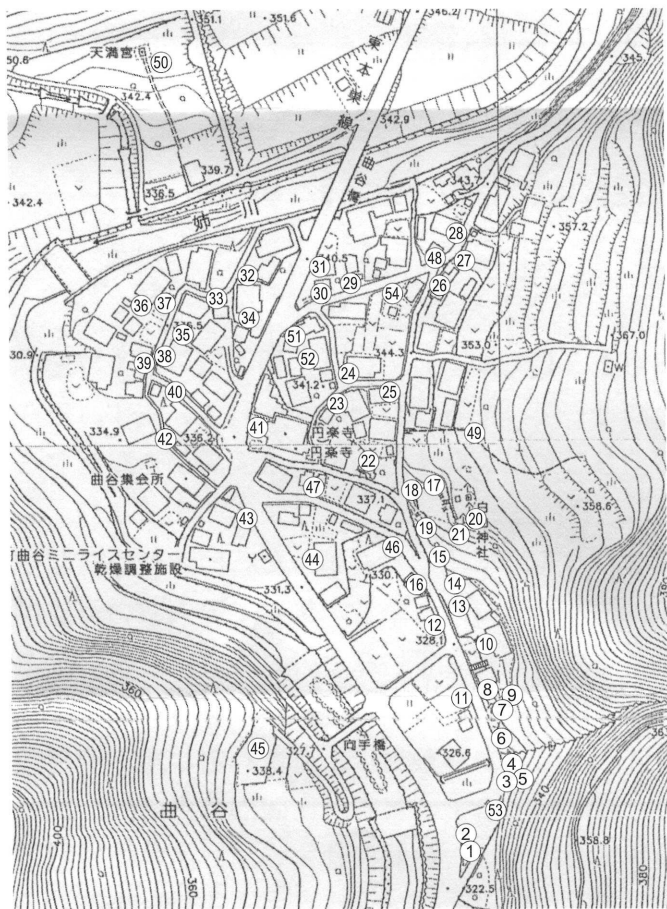
## —石工の村・曲谷—

曲谷は石臼(粉挽き臼)作りの里として知られ、臼博士として知られていた三輪茂雄の著書『臼』(法政大学出版)にも、大量生産地をもつ石臼のひとつとして「曲谷臼」が紹介されています。現在はおこなわれていませんが、その名残りは、集落のあちこちに点在する石臼の未製品から確認することができます。

山中の石切り場では、明治期まで採掘作業がおこなわれていて、できあがった石臼素材を四ないし五個かついで集落まで持ち帰ったということです。持ち帰るコストから、集落での失敗の可能性をなるべく低く抑えるため、現地で破損のおそれがある仕事を終えていたとのことで、合理的な工程管理がおこなわれていたようです。明治期にはすべての家が石屋であり、農業の傍ら石臼を作っていたそうです。ここで作られた石臼は問屋まで運ばれ、そこから各地に出荷されました。曲谷臼は北近江や西美濃に広く及んでいて、流通ルート的一端が知られています。山間部の集落は、耕地面積が少ないことから、現金収入につながる独自の産業を模索し、発展させました。曲谷の石臼作りは、そのもっとも典型的なものです。

集落の東の山裾に白山神社が鎮座しています。鳥居は曲谷石製、境内にも石製のほこらがあり、拝殿下の宝篋印塔台座や、山側には2基の板碑(市指定文化財)が立てられており、他地域の神社ではあまり見ない独特の景観を醸し出しています。





曲谷石造物分布図

板碑はともに細身の碑身で、頭部を四角錐状に作り、二条線を彫った下に仏像を彫刻する古式な作風を保持しており、鎌倉時代末に遡る、曲谷でもっとも古い遺品です。集落の中ほどの円楽寺には、石工の技術を伝えた西仏房の石像が安置され、石臼作りの起源を伝える記念物になっています。集落の入口にあたる場所に石臼公園があり、曲谷を象徴する巨大な石臼のモニュメントが設置されています。



石造板碑⑲

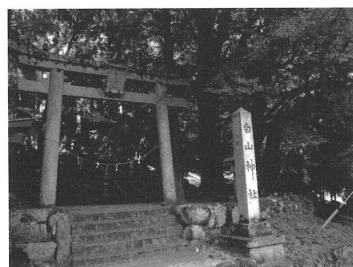


石臼の階段⑳

曲谷は全国的に見ても、採掘場とその採掘場で生産した石臼を使用した集落がわかる珍しい例です。集落内には、家の階段などに転用された石臼を中心に、曲谷産花崗岩で作られた漬物石、唐臼、石仏、石塔、板碑、石堂、蔵の基礎や階段、杓脱石、鳥居、物干し竿の台、石灯籠、墓石、手水鉢などがみられます。出荷用の石臼とは別に、生活のさまざまな道具を同じ石材で作っていたという石工の村ならではのものといえます。



蔵の屋根支材㉑



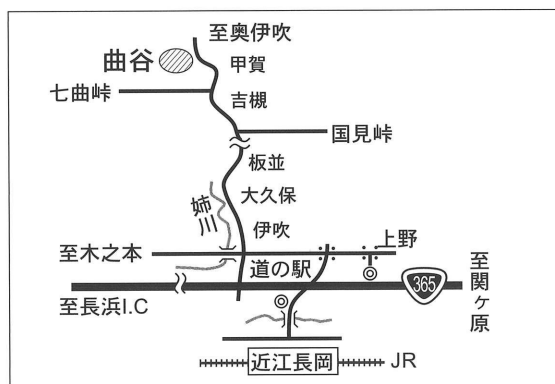
白山神社



丸楽寺(西仏房石像安置)



石塔群(白山神社)㉒



### 石臼生産遺跡2 —石工の村・曲谷—

- 所在地 滋賀県米原市曲谷
- アクセス JR東海道本線近江長岡駅下車。バス利用。

### 米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1050-1 TEL.0749-55-4552  
平成25年度 埋蔵文化財活用事業